佛の強縁を わするる ことなかれ

西山上人



第 42 号

阿 私たちの方が 阿弥陀さまを思う以上に、 私たちが

弥陀さまから思われてい る。

強い縁で、 どんなときも

あなたを救 いたい・・、 と。 佛となられた阿な苦の人々を救うな れた阿弥陀さま。と救うために、 訳

阿

弥

陀

仏

に身も心もおま

か

せ 致

します。

净土宗西山 称念佛 話 礼 勤行式 (赤本) 拝 ~何 7が書い てあるの?~ 解説

南 無 阿 弥

陀 仏 三称一礼

南 無 阿 弥陀 仏

南 無 阿 弥陀 仏

//

から、 え \equiv 称 三 が 念 , , 称 佛 念 礼 佛 Z 拝 礼 と 0 拝 間 は と 15 () 南 () 回 無 ます。 礼 阿 弥 拝 す 陀 る 仏 を三 回

称

 \bigcirc 前 声 150 目 0 南 無 阿 弥 陀 仏 合掌 た 手 を

顔

胸

0 声目 前 150 0 南 無 阿 弥 陀 仏 で、 合掌 L た手を

が 面 つ 両 15 三 て、 手 声 目 け 0 上に ま 丁 \bigcirc · 寧 す 南 15 お 無 頭 乗 阿 を下 l) 0 弥 () 時 陀 げま た 14 だ で、 阿 す 弥 () 7 陀 両 さ 手 る ま • ť 0 額 う 御 を 足 地

れを三回 繰 V) 返 L ます。

お ま 返 せ 15 送 ま 事 7 お 私 14 お す 念 阿 でも 0 l) 様 。」と誓 任 名 す 15 弥 14 」を呼び 感謝 は、 る あ 陀 せ さま 気 る この身この命すべて阿 \bigcirc ま 持 \bigcirc い、仏となられ て す 気 なさい、必ず極楽 ち 0 す。 て 、持ちを込めて、 お という私 誓 ゆっくりと称え たち 対 た阿 す る の思い、 弥 へ往 私 お 陀さま。 弥 た ま 浄 生さ す。 陀さ ち 土へ Z

外 1 レ 改 修 工 事 完 了

完 1 修 成 工 事 た 化 しま 7 昨 と ŧ 年末に た。 ま た 無 外 改 事

便をお ざい 理 訳 工 事 解 あ まし ご協 中 l) か ませ け は た。 致 力 あ 6 L 何かとご不 ま l) でした。 が して申 とう

す Z ても レに が ス 今回 を が 乗 なな 確 l) ゆ できた l) 保 改 つ 入 | ŧ しま れできる た イ 修 した。 1) 0 工 ŧ 事 した とし は ・をす 0 スペ た 車 で、 る | ()

月

影

こと 様 た た を 7 中 C ご協 力 お を頂 寺を 0 ŧ () 維 あ 持

> お だ () りま と る 檀 す。 ま 家 感 た。 あ 謝 l) 様 た か お 7 陰

ろ か ましては ら支出させ 尚、 た。ご了承 工事 願 費 維 () のほ 持 致 7 用 頂 費 15 します。 どよ きま \bigcirc 0 方 き



新トイ

頭北面西

を北に、右脇 き、両足を重 この姿が、「頭北 お 釈迦さまがご入滅され ねて横になられました。 腹を下に、 面西」です。 顏 た時、 は西を向 頭

それ 北 習 釈迦さまにならって、 その後、弟子たちは亡くなる時に、 が 面 西 できたそう 以 来、 の姿で横になったそうです。 死者を北 です。 枕 で寝かせる 同じように

お

頭

風

滅 され 法 月十 要 た を 日 五 勤 で、 日は、 8 ま 涅槃 す。 お 会 釈 迦 ねは さま がご入 んえ)

ち 掛 お 釈 軸 < を 嘆 迦 き さま か 0 け 悲 仏 Z が 7 L 法 6 ま 頭 いや弟 北 へ 要を行 () 面 子 る 西 や 様 へ 生 ま 子 横 を描 き物 す。 15 な た 1)

和

常 林 院 年 間 行 事 予定

月 H 修 正

日 日 涅 観 槃会· 音 講 初 会計 参り

三月

四

月

日

花

ま

つり

月

春彼岸会 (予定)

日 日 お お 盆 盆 墓 棚 参 経 1) 開 始

日 日 // //

旬 日 地 盆 蔵 施 盆 餓 鬼会

十 九 月二十 一月十 四 日 秋 十 夜 彼 岸会 (予定)

> 雑 大 往 生

と言わ の世 和 た は お 生 老 釈 病 迦 死

ように、 つも生老 お 釈迦 病 とさま 私 たちには、 死 が という四 言 わ . N る ()

お

こともあります。

命が終わ

る時、その人

生をふり返って、生老病

死の人生であったなら、

物質 二千年以上経った現代、

を遂 は二 Q 千年前 は げまし 同じような苦し たが、 と変わら 精神 ず、 4 面

それ

は、

大

往生と言える

か

もし

机

ません。

考え方を変えてみると、 悩 誕 4 か この生 老 病 死

浄 成二十四年一月三十 土宗西山禅林寺派

院 発 行

るこ

とができたら、とて

 \bigcirc

順

番

通

りに人生を終え

死

迎え

病

気

15

なる

もありがたいことです。

この世では、縁によっ

さま。

報告

て、

若くして病気で亡く

なることや、また、事故

や震災で突然命を落とす

の苦がそば ることは あ にあって離 りません。 n

釈 迦さま の時代から

面 は 目 を見張 る進化

を抱えて います。

老 生 する (老) (生)

42 号